



モンゴルの民族衣装を着た、谷口アルタントーヤさんと娘の彩音ちゃん。

いつかは通訳をして、日本とモンゴルの架け橋として役に立てればなあと思っています。

プロフィール

モンゴルの首都、ウランバートル生まれ。大学で日本語を勉強するかたわら、アルバイトで観光ガイドをしているとき、今のご主人と知り合い、文通を始める。その後、招かれて95年に初来日。96年に結婚して、余呉町に住むようになる。月1回、地元の小中学校や幼稚園に招かれて、モンゴルについて紹介する活動をしている。29歳。

1家に1台の馬頭琴を持ちましようという「馬頭琴を敬愛する」運動が始まっています。2003年11月17日、ユネスコ(UNESCO)は馬頭琴(モリン・ホール)の伝統音楽を「人類の口承および無形文化遺産の傑作」に選出しました。

これからの夢を聞かせてもらえますか。

いつかは通訳をして、日本とモンゴルの架け橋として役に立てればなあと思っています。一番したいのが同時通訳です。昨年滋賀県で行われた「世界水フォーラム」のとき、モンゴルからも3人が参加していました。モンゴルにもフスグル湖という大きな湖があります。そのときに同時通訳をし、すごくいい体験になりました。こういうところにいると、通訳する機会が少ないので、学校などに誘われたら必ず行くようにしています。

最後に、滋賀県の人へのメッセージをお願いします。

それは、水を大切にしてほしいということです。モンゴルには海がないし、砂漠などが多い国なので、水不足の所がたくさんあります。だから、モンゴル人は水を本当に大切にします。例えば顔を洗うにしても、バケツに1杯くんで、その限られた水で顔を洗ったり歯を磨いたりしています。砂漠の方に行くと、本当に水なしで10日間過ごす家もあるし、ラクダなどは、20日間も水を飲まず生きられるんですよ。

けれども、日本人は水の使い方がぜいたくですね。洗物するにも、顔を洗うにも、ずっと水を流している。いつも夫にも小学校でも、この事を言っています。水を出しっぱなしにしていると止めてまわります。夫は「日本はいいよ～、水がいっぱいあるんだから」というけど、水が足りなくて苦労している人はたくさんいるのだから、琵琶湖があっても水を大切にされた方がいいと思います。

日本に来られたきっかけを教えてください。

大学で日本語を習っていたんですが、そのきっかけが、モンゴルの日本ブームでした。まわりの友だちがみんな日本語を習っていたんですね。そして私一人だけ英語を習っていたんですが、友だちが日本語の方においでよ、おいでよと言ったので、私も日本語を習うことにしたんです。そして、日本語を活かして旅行会社でアルバイトをしていました。そのとき、私が案内したツアーに今の主人が入ってきたんです。1週間ぐらいあちこちを案内しました。そして写真を撮ってくれたんですが、その写真が日本から送られてきたのがきっかけで文通を始めました。

私が日本語を習い始めたときは、教科書や辞書がとても少なかったんですね。あっても高く、大学生にはとても買えなかった。ですから、その手紙のやりとりがとても良い勉強になりました。

5年ぐらい手紙のやりとりをしたあと、日本に来ませんかと誘われて、初めて来日しました。それが95年のことです。2週間滞在して、いろいろなところをまわり、またモンゴルに戻りましたが、そのあとも仕事をしながら行ったり来たりして、96年に結婚してこちらに住むようになりました。

今は、年に一度、子どもを連れてモンゴルに帰っています。

日本の印象はどうでしたか？

モンゴルにいたとき、テレビで日本を観ていたので、日本は高層マンションが建ち並ぶ都会というイメージがありました。でも、いきなり田舎に来たので「日本にも田舎ってあるの」とびっくりしましたね。

結婚されるとき、モンゴルのお父さん、お母さんは反対されませんでしたか？

もちろん、反対しましたよ。子どもは近くにいて、近い所から見守ってほしかったみたいですね。とても心配そうだったから日本に呼んで、日本はこんな所だよということを

見せると、納得してくれました。どうして心配したかということ、実は結婚する前にモンゴルのテレビで「おしん」を放送していたんですよ。その影響で、日本というのは姑のいじめがあると思っていたんです。「おしん」は昔のドラマだということをまだ理解していなかったんですね。「日本は古い文化を持つ国だから、昔ながらの厳しいところが残っているんじゃないか」と心配していたようです。

小学校でモンゴルの文化紹介をしてられるそうですね？

月1回程度、小中学校や幼稚園に行つてモンゴルの話をしています。木之本小学校はもう5、6回ぐらい行ったと思う。ほかにも彦根や伊吹など、いろんな所へ行きました。

これを始められたきっかけは？

夫が学校で働いている関係で、音楽や地理の授業でモンゴルの話があるから、ぜひ来てほしいと言われたんです。木之本小学校では国語の授業で「スーホの白い馬」を習うんですね。その中に馬頭琴が登場するんですが、私は馬頭琴を持っているので、それで来てもらえないかと。学校に行くときは、モンゴルの国旗やスライド、おもちゃなどを持って行って、子どもたちと一緒に遊びながら2時間ぐらいの授業をします。

馬頭琴ってだれでも弾けるものじゃないですよね。練習をされていたんですか。

練習し始めたのは日本に来てからです。長年自分の国、故郷、家族から離れて生活していると、古里が懐かしくなります。モンゴルの音楽や馬頭琴の音色などを聞いていると、懐かしくて、自然に心惹かれて、自分でも弾けるようになりたくて、教えてもらうことにしました。年に1回、7月から9月の暑い時期にモンゴルに帰るんですが、その間に先生に教えてもらっています。馬頭琴というのは昔から男の人の楽器だったんですが、それが最近女性でも弾けるようになっていますが、女の人が弾くのは珍しくて、だれでも弾けるものではない。5、6年前からモンゴルで、



子どもたちから届けられた感想文